

心で聴ける、話せる関係づくり

校長 大野 郁子

10月23日（木）に、新潟市で「寺子屋ありがとう」を主宰していっしやる岸本達也様からお越しいただき「言葉にすると見えてくる！見逃さない力の育て方」という演題で、ご講演をいただきました。

岸本様のお話の中に出てくる「見えるもの」というのは、物理的な「見える」ではなく、心理的に「気付く」「意識する」という意味で話をされたように思います。「見える（気付く）もの」、「見えにくい（気付きにくい）もの」として次の表のような例を挙げていらっしゃいました。



日常の中で、当たり前だと思って、見過ごしがちな幸せや頑張りは、たくさんあります。これらを言葉にすることで、改めて幸せや温かい気持ちを感じることができます。人は、とかく失敗や欠点に目が向きがちになります

見える(気付く)もの	言葉に表せること、できないこと、失敗したこと
見えにくい (気付きにくい)もの	当たり前と思っているもの、うまくいっていること 頑張っていること どうしたらいいか分からないこと、 解決できないこと

が、見過ごしがちな「当たり前」を言葉にして、「ありがとう」「うれしかったよ」「がんばっているね」「大好きだよ」等と伝えることで、報われることは多いように思います。

また、岸本様は、どうしたらいいか分からないことも、「見えにくい（気付きにくい）こと」なのだと話されました。「いじめ」や「人間関係の悩み等」についても、どうしたらいいか分からないと解決につながりません。誰かに聴いてもらい、言葉にすることで自分の本当の気持ちに気付いたり、解決の糸口を見つけたりできます。

私は、「話すこと、聴くこと」は、「考えること」と深く結びついていると思います。誰かに話すことで考えが整理されたり、深まったりということがあります。子ども同士、子どもと大人、大人同士…。誰もが心で聴いてもらえる関係が大切です。ご講演の最後に岸本様が、「みなさんはどんな人になら話したくなりますか」と問うた時、子どもたちからは、「優しい人」「うなずいて聞いてくれる人」「目を見て聞いてくれる人」というような声がありました。毎日の生活の中で、子どもの話に耳と目と心を傾ける時間を大切にしていきたいですね。